

男女共同参画社会の実現に向けて

らぶらす

Vol. 87
Dec 2023
Take Free

Interview

男性が男性アイドルを推してもいいんだ 自分らしさを大切に趣味を楽しみたい

YouTuber あくにゃん

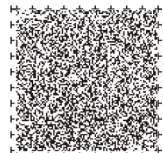
P. 5
らぶらすコラム

武田砂鉄
「勝手に分断してしまった」

P. 6
らぶらすで自分の時間の使い方をChoice!

Setagaya Information
男女共同参画先進事業者表彰の
受賞事業者が決まりました!

P. 7
私の居場所 ～らぶらす登録団体紹介～
特定非営利活動法人
コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ
らぶらす施設紹介



音声コード

この情報誌の表紙には、目の不自由な方などへの情報提供に役立てられている音声コードを印刷しています。「音声コード」は紙に掲載された印刷情報をデジタル情報に変えたシンボルで、約2cm角の中に日本語(漢字かな交じり)で約800文字の情報を記録することができます。専用の活字文字読み上げ装置を使用して音声で内容を聞き取ることができます。「音声コード」の横には、視覚障害の方が触覚によりコードの位置を把握できるよう、切り欠きを入れています。

らぶらす Vol. 87 Dec 2023

編集・発行：世田谷区生活文化政策課 人権・男女共同参画課 2023年12月発行 世田谷区広報印刷物登録番号/第2202号
〒156-0043 東京都世田谷区松原6-3-5 TEL 03-6304-3453 FAX 03-6304-3710 URL <https://www.city.setagaya.lg.jp/> 制作：株式会社エヌエフ

私の居場所 ～らぶらす登録団体紹介～

特定非営利活動法人 コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ

コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ(以下、ウェーブ)は、世田谷区で誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し活動している。介護事業、相談援助事業、地域福祉事業の3つの事業を行っており、高齢者・障がいのある人の支援をはじめ、DV被害者支援や地域の居場所づくりに取り組んでいる。ウェーブは、暮らしのなかの困りごとを地域の課題として捉えなおし、住民が支え合って誰もが暮らしやすい地域づくりを目指している。



理事長の佐光正子さんにお話を聞きました。

ウェーブは、女性を支援する団体というイメージが強いかもしれませんが、じつはそれだけをやっている団体ではありません。ウェーブが誕生したのは1994年ですが、精神障がいを抱えた人たちのための食事会を開いたのが活動のはじまりです。障がい者の支援、地域福祉活動をしていく中で、2000年頃DVに遭った女性に出会い、これは地域の課題として取り上げるべきだと、私たちは身をもって感じました。そこで、DV被害に関する講座を開催したり、電話相談を始めてみたり、本格的にDVの問題に取り組むはじまりました。講座を開くと、そこにはかならず当事者が来てくれます。困っている人とつながって必要な情報を渡せたことに、私たちが非常にやりがいを感じ、これは継続的に取り組む必要があると思いました。DV被害に遭った女性の支援、相談援助事業を始めたのは、こうした経緯があったのです。

当然のことですが、支援活動をしていくと、資金と場所の確保の難しさなど、様々な困難に直面します。相談支援を始めた頃、DVはまだ世間で十分に認知されていなかったため、DVについて知ってもらい、さらにウェーブの活動への理解・協力を得ることに苦戦しました。また、相談してくれた人に役に立ちそうな情報を紹介していると、当時の世田谷区には当事者の使えるような社会資源が不十分であることにも気づきました。その時、ちょうど世田谷区のDV問題への取り組みが動き始めたので、行政機関と協働することで私たちはやっと安定した活動を継続することができ、サポート・グループと誰もが安心して来られる居場所を世田谷につくることができたのです。

当事者には尊厳があり、生きていく力がすでに備わっています。そのことを、対等な関係において本人と一緒に再発見していく支援を目指しています。ウェーブでは、今年ボランティア・サポーター養成講座を開きました。嬉しいことに、区から講師派遣の協力をいただくことができ、その参加者から十数人のボランティア登録もありました。こうして理解のある人が地域の中に少しずつ増えることで、当事者にとって生きやすい環境になっていくと信じています。

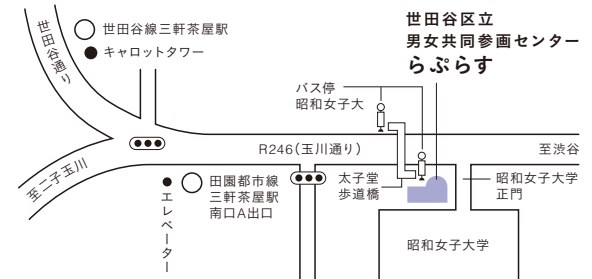
生きていくと、誰もが傷ついたり疲れたりします。SOSが出せたり、本当の気持ちを話せるように、ウェーブはこれからも寄り添う居場所を引き続き提供し、自分の抱えた問題がないことにされない地域づくりを目指していきたいです。

<http://www.ngo-npo.org/wave/>

らぶらすは、男女共同参画社会実現のための拠点施設です

世田谷区立男女共同参画センターらぶらす

さまざまな講座・イベントを開催しているほか、生き方や働き方などに関する電話や面接での相談も充実しています。3階情報・交流コーナーは、予約なしで打合せや読書などに使えるスペースで、無料Wi-Fiも整備されています。



電車：東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩7分
バス：東急バス・小田急バス「昭和女子大」下車
小田急バス(駒沢陸橋～北沢タウンホール)「三軒茶屋」下車
※駐車場の利用をご希望される場合はらぶらすまでお問合せください

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂1-12-40
グレート王寿ビル3～5階(受付3階)
TEL 03-6450-8510 FAX 03-6450-8511
URL <http://www.laplace-setagaya.net/>



らぶらすHP



Facebook



X
旧 Twitter



Instagram



世田谷区HP

目次から探す → 区政情報 → 施設 → 生活関連(男女共同参画、仕事探し、消費生活)施設 → 男女共同参画センター「らぶらす」のご案内





Interview — Akunyan

男性が男性アイドルを 推してもいいんだ 自分らしさを大切に趣味を楽しみたい

ジェンダー平等の価値観が浸透しつつありますが、男性自身の「男らしくいなきゃ」、世間一般の「男なのに」といった思い込みやプレッシャーはまだまだ根深く存在しています。男性の趣味に対しても同様で、男性アイドルを応援する男性は色眼鏡で見られてしまうことが多いのが現状です。会社員として勤務しながらアイドルヲタク系 YouTuberとしても活動しているあくにゃん(阿久津慎太郎)さんは、いつか男性が男性アイドルを推すのが当たり前のこととなるように、各メディアで自らの「ヲタ活」(趣味の分野でヲタク活動をする事)について発信し男性アイドルを推す男性の可視化に努め、そうした男性に対する思い込みの解消を図っています。「らぶらす」87号では、あくにゃんさんに男性アイドルにみるジェンダー規範と自分らしい生き方についてお話を聞いてみました。

YouTuber あくにゃん

Profile
栃木県出身。立教大学現代心理学部にてアイドルと仙人の関連性を研究。「ヲタクをするために生きている」をモットーに、日韓の男性アイドルを海外まで追いかけるアイドルヲタク系 YouTuber。国内外の現場に通うフットワークの軽さと冷静な分析力は、様々な年代のヲタクからも支持されている。普段は会社員として働くかわら、コラムの執筆やイベントMCとしても活動中。2021年に初の著書『推しがいなくなっても、ぼくはずっと現場(ここ)にいる』を出版。メンズメイクに関する動画が世界中の人から再生され100万再生を超える。

X: @akunyan621
Instagram: @akunyan621 YouTube: @akunyan

近年、ヲタ活、推しなどの言葉がメジャーになり、男性アイドルを推す男性も以前と比べると増えている気がします。その辺の変化は感じますか。まず、自己紹介も兼ねて聞かせてください。

僕は、アイドルヲタク系 YouTuberとして、日韓の男性アイドルを応援しています。YouTubeチャンネルでは主に、ライブやイベントに参加したレポートや、CDの開封動画を上げています。ヲタクの視点を生かして仕事をする人が多いです。例えば、アイドルを推すことについて語った本の出版、韓国の観光に携わるイベントへの登壇、あとメディアの取材などですね。

ヲタ活などの言葉がメジャーになったのは、SNSの発達が大きく影響していると思います。例えば、「ニコノス(ティックトック)が流行って以降、アイドルの楽曲はニコノスを意識するようになりました。アイドルグループのことはそれほど知らないけど、流行っている曲だから踊ってみたという人はずいぶん増えたと思います。しかしそこで、男性アイドルを推している男性ヲタクがライブ会場などにたくさん増えたかと言われると、僕は疑問を抱いています。たしかに、男性が男性アイドルを推すことに対して、昔と比べて世間はネガティブなことを言わなくなったかもしれない。以前、テレビ局のディレクターに「阿久津さんは男性の方が好きなんですって」みたいなことを、聞かれたことがあるのですが、そういう偏見のある質問は、最近では聞かれなくなりましたね。おそらくテレビ局でも研修をいろいろとやっているからでしょう。ただ、こうした世間の変化は男性アイドルを推す男性ヲタクが増えることの後押しになっているのかと言ったら、必ずしもそうではないと思います。男性アイドルが好きな男性はまだまだ少ないわけではなく、可視化できていないだけなんだろうな。だからこそ僕は、男性アイドルを推す男性として YouTuberで

発信し続けているのです。

男性アイドルの男性ファンは以前よりもセンチティブに扱われているようになったんですね。

そうですね。ただ、センチティブに扱われていること自体は、僕はあまり良いとは思いません。過度に配慮することで、なんで男性が男性アイドルを推しているのだろうという疑問や、きつと男性が好きで恋愛目線で推しているに違いないという世間一般の思い込みが逆に温存されてしまう懸念があるからです。

男性アイドルを推す男性ヲタクの存在が、いまだに珍しいのは、まさにジェンダー規範ですね。そのような、趣味とジェンダー規範の関係性について何か感じたことはありますか。

僕はアイドルヲタクなので、アイドル関係で話させてもらいますね。その点に関して、僕の著書『推しがいなくなっても、ぼくはずっと現場(ここ)にいる』(主婦の友社)でも触れているのですが、男性アイドル側を彼氏、ファン側を彼女と見立てるということが長年行われてきています。例えば、歌詞の内容もそうですが、グループによってはファンネームが完全に女性性を表すものになっていることがあるんです。それでは、男性ファンは歌詞とファンネームに共感できなくて蚊帳の外だと感じてしまいます。

ただ、近年では、男性アイドルによる男性目線という構図も揺らぎはじめています。ファンネームに関して言うと、女性に向けたものではなく、オールジェンダーに向けた言い方に変えて、誰にとっても推し語りができるように工夫していたり、ライブ・コンサートの

MC中に、ファンに対して「みんな今日もかわいいね」と、ファンに男性がいらない前提のもとで進められるとき、それに気づけているメンバーが「男性もいますけどね」とフォローを入れる場面は、すでに何回も目にしています。

ジェンダーに関して配慮できるメンバーもいるんですね。

ジェンダーに関しての捉え方は、個人差が非常に大きいですね。ジェンダーについて勉強したことがあるかどうかでだいぶ違うと思います。僕が大学1年生のとき(2014年)に、ジェンダーの授業をいくつか受けていたのですが、授業でLGBTは何の略かという質問に対して、受講生はまだ全然わからないくらいレベルでした。その時、記憶に鮮明に残っているのは、受講生のなかに「自分は日本史専攻だからわからない」と言う人がいたことです。ジェンダー、LGBTに対してやはりどこかで海外のものだという思考は、その頃の大学生のなかに確実にあったのですよね。

学校でジェンダーの授業を受けたらしていると、やはり世の中の捉え方は変わると思います。そういうことに触れてこなかったら、結婚することは当たり前で、子どもも産まなくてはいけないという誰かが作った規範のみが選択肢になってしまいます。そうなれない自分に対しては、過度なプレッシャーにもなりません。そして、ある種の王道とされた生き方は、アイドルの歌詞を通して、小さい頃から何度も刷り込まれるので、気をつけないといけないと思います。

ちなみに男性アイドルのなかで、「lol patriarchy」という家父長制を揶揄するTシャツを着る人もいます。で、アイドルでありながら歌詞や演技などの作品だけではない方法で世の中にアピールされる方もいます。

ジェンダー観をアップデートしている男性アイドルが出てきているんですね。男性アイドルをずっと見てきて、男性アイドルの男らしさについて何か考えたことはありませんか。

そうですね。男らしさを強調する場面、例えばみんなで筋肉を見せるときに、筋肉がないメンバーがちょっと陰に隠れて居場所がなさそうにしている感じとか、カッコつけなくてはならないときにそれができないメンバーがネタに走るような場面を目にすると、つらいのだからなと思います。

一方、最近では必ずと言っていいほど、グループのなかでピンク担当、かわいい子キャラのメンバーがいます。ひと昔前、かわいい仕事をするとするのは罰ゲームとして使われていて、それを強いられて過剰に恥ずかしがるということが男性アイドルのなかで定番化されてきました。でも、最近は罰ゲームもなく、普通にかわいい仕事ができる、ぶりっ子ができるメンバーがいて、その子に対してほかのメンバーは「気持ち悪いよ！」などのツッコミもせず、ファンはかわいいと答えるという、新たな定番化が起きています。「かわいい」がひとつのキャラになるというか、個性として前向きに受け止められ、さらにそのような自分に対して自己肯定ができる男性アイドルは増えていると思っています。



それは間違いなくジェンダーによる思い込みですよ。メンタルケアはどうですか。気持ち吐露できないとか、悩みを相談できないとか、弱さを見せられないとか、そういう男性性規範とはどのように付き合っていますか。

いまは全く気にしていないかもしれません。昔、イベントでスカートを履いて女子高校生の格好をした映像を、父親に観られたときかなり否定的なことを言われて、それだいたいぶ病んだことがあります。でも、そこから逆に吹っ切れて、それぐらいのことでそこまで言われる筋合いはないと思うようになりました。そういう規範や周りの視線が気になるとき、自分が本当に気にしているのは誰の目なのかを一度考えてみるというのがいいかもしれません。僕の周りで言うと、やはり親の目を気にしている人が多いかなという感じがします。高校生になったらメイクを始めたいという男の子からメッセージをもらったことがあって、高校生になっただけで何が変わるのかと不思議に思うと、やはり親との関係性で悩んでいるからだったんですね。ただ、親だつて失敗することもあるし、間違ふこともあるし、過激な言い方すると他人なので、親の目をそこまで気にしなくてもいいよと言ってあげたいです。

冒頭で触れたように、男性が男性アイドルを推すこと自体はセンシティブに扱われるようになりませんが、それに対する世間のモヤモヤと思ひ込みは消えていません。だから、自分のやりたいことも含めて自分を理解してもらうには、やはりこちらから積極的に説明する必要もあると思います。言ったほうが楽なことも多いです。

ただ、そこで悩ましいのは、ヲタクは男性アイドルのそういう「男らしくない」部分を女性性に例えて称える傾向があるということです。分かりやすい例を挙げると、面倒見のいい様子や、家事が得意なメンバーを、「お母さん」とか「ママっぽい」と言うことがしばしばあります。それを紐解いたら、そこには母親というものに対する固定概念や思い込みがあるだろうし、表現としてどうかなのも考えてしまいます。と、言いつつ、僕自身も推しのわがままなかわいさを妬まうと言ってしまう。どちらも褒め言葉として使用しているのですが、なぜ女性性の強い表現に転換してしまうのかは考える必要がありそうですね。

男性アイドルのあり方も変わってきているのですね。しかし、面倒を見ること、つまりケアが女性性に結びつけられるのはやはり気になります。

そうですね。ケアの話にうまくつながるかどうかわかりませんが、僕のなかで強く刻まれている記憶がひとつあります。学生時代、女の子が同性同士で手を繋いで廊下を歩いたりすることはよくありますよね。あれがずつとやらやましいというか、どうしてああいうことは男の子同士では起こらないのだろうと、小さい頃からずつと思っていました。しかし最近、男性アイドルオーディションのサバイバル番組で、男の子同士で手を繋ぎながらテレビ局に入っていく様子がSNSにあがったんです。そのことに対して過剰に賛美するファンがいたら、気持ち悪いと言うファンもいました。もちろん、彼らはファンの視線をある程度は意識しながら行動していると思いますが、舞台から降りていて素に近い状態で出てしまった、仲の良さに対する賛美も批判もきついなと思いました。恋人ではなく、フラットな関係で男性同士が仲良すぎて手を繋いで歩いてしまふというのは、今日においても敵しいものなのだと。

確かにそうですが、ただ当事者性が強く悩んでいる人だと、なでいちいち説明しないといけないのだというふうにも思いますよね。

そうですね。僕自身はなるべく知ってもらいたいタイプの人ですけど、でも場合によって濁してもいいし、親に言えない趣味というのは別にアイドル関係なくあるから、それをすべて親に公言する必要は全くないと思います。規範との付き合い方に関してもう少し言うと、僕は中学生の頃から変わっていて、キワモノというか、「だつてあくにやんだもんね」と言われて生きてきたのですが、自分が変わっているというのを認めて、自分で自らをキワモノとして認識することで自分自身を守ることができた気がします。社会の規範なんて自分には通じないよということを、自分に対しても思っているし、他人に対しても提示しています。

規範なんて自分には通用しないという言葉は心強いですが。まだ吹っ切れなくて悩んでいる人、特に自分らしく生きられない男性に対して、伝えたいことはありますか。

自分らしさの定義は難しいですが、男性アイドルを推す男性ヲタクとして言わせてもらおうと、例えば、本当はライブに行きたいのに我慢している男性がいるとしたら、そのような男性は自分らしさを体現できていないのではないかなと思います。そういう方にはぜひガンガンライブに行ってください。ライブでしか味わえない感動や空気感があるからです。そこで勇気がないとか、周りの目があるとかなわないで、決め打ちで行動に移してほしいです。そうしたら自分が変わるのかもしれない。

と、言いたいところですが、いきなり自分に自信を

男性同士のケアし合うような関係性を消費するでもなく、嫌悪するでもなく、ただ普通のこととして受け入れてほしいのですね。ちなみに、ケアに関して、あくにやんさん自身はどうですか。スキんケアのようなこともメンタルケアもあわせて自分をケアしていますか。

グループ内の才能のあるメンバーがトップ、言ってしまうと猿山の大将みたくになってメンバーをケアするパターンもありますよね。そのような、ヒエラルキー構造によるケアではなく、横同士のケア、横並びでケアし合うことがもつと行われるといいなと思います。芸能という業界自体が敵しい面もあるので、「相談」は「弱音」に変換されやすいですし、「できない悩み」も「練習不足」で片付けられてしまうことがあります。ましてや、男性は男性相手に悩みを打ち明けにくいみたいな印象もあるので、メンバー同士でケアしていく力も、これからは必要なんだろうなと思います。

セルフケアに関して、スキんケアとメイクは一通りやっていますね。それも推しから影響を受けているところがあります。男性アイドルを推す男性ファンの特徴は、アイドルを自分自身にトレースできることですよ。自己投影と言っているかわかりませんが、例えば僕は推しのメイクを実際にまねしたこともあります。

メイクで思い出したのですが、僕は勤務先のトイレでメイクを直したりするぐらい、会社のなかでもメイクしていることをオープンにしています。そうしたら、会社では重いものを持たされなくなつたのですね。これもおそらくジェンダーが関わっていますよね。メイクするよな、女性っぽい男性には、そういう男性的な役目を頼まない方がいいという思い込みを持っていると思います。

持っていこうと言われてもなかなか難しいですよ。がんばって行動に移して傷つくこともありますね。じつは、僕が男性アイドルを応援し始めた時、男性アイドルのヲタクとして発信する男性はほぼいなくて、でもたった二人いたので、僕はその人にとっても勇気づけられました。なので、僕は、「これからも「僕がいるよ」「こういう男性もいるよ」という可視化を続けていきますので、それが悩んでいる人を勇気づけ、一歩踏み出すきっかけになれたらうれしいです。その踏み出すタイミングは自分で決めればよいですし、それまでは僕はずっとここにいますから。

(聞き手…西森路代/ライター)





らぶらすで自分の時間の使い方を Choice!



自習室が利用できます!

らぶらすの研修室を自習室として開放しています。勉強、課題など、様々な目的で利用いただけます。また、疲れた時には、3階活動コーナーで本を読んだり、休憩することができます。

〈利用時間〉

高校生～大学世代：午後1時～午後9時30分
中学生：午後1時～午後8時
※土・日曜日は、午前9時から開放します。
※ご利用いただける日は、右側の2次元コードよりご確認ください。



Setagaya Information

男女共同参画先進事業者表彰の受賞事業者が決まりました!

仕事と家庭の両立支援や女性の活躍推進、誰もが働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる事業者を表彰しています。今年度の受賞者が次の6事業者にきました。

受賞事業者紹介 ※申込み順

〈受賞事業者〉	〈表彰理由〉
学校法人 日本菓子学園	「産前産後休業」「育児休業」を積極的に奨励する風土がある。職員同士のフォロー体制が整備されており、気兼ねなく休暇をとることができる環境が整っている。「限定正社員制度」を導入し、出産や育児を機に仕事を辞めることなく、継続して働くための環境整備に成功している。
東京福祉バス株式会社 世田谷営業所	就業時間の自由度を高く(少日数勤務、フリー時間等)設定し、従業員の生活環境への影響を最小限に抑えることに成功。現況にとどまることなく、更なる職場改善を目指し、営業所内での「業務改善委員会」を設置し、議論を進め、更なる働きやすい職場づくりを目指している。
南海工業株式会社	社会保険労務士と顧問契約を締結、育児・介護休業制度に関する相談窓口を設置し、制度活用を積極的に促すことに成功。女性管理職の登用に力を入れており、建設業界における現場監督での女性管理職の育成に励んでいる。人材育成の観点からも、きめ細やかな対応に成功している。
特定非営利活動法人 アクト世田谷 たすけあいワークス ゆりの木	積極的にICT(介護システム、勤怠管理システム)を導入し、事務作業の効率化を図ることで、職員の技術習得の時間を生み出し、丁寧な仕事の実現。第三者評価や従業員向けアンケート調査を実施することで、潜在的なニーズを的確に把握し、業務改善を実施。離職率の高い福祉業界において長い勤続年数を保持。調査結果からも従業員の満足度も高い。
株式会社 秀デザイン企画	在宅勤務を併用しての勤務が可能であり、ライフステージに関わらずワークライフバランスの実現に成功。会社独自の制度として、「AWARD(社内表彰式)」を実施、会社貢献度に応じて表彰を行い、モチベーションの向上に成功。また、「同じ釜の飯制度」等を創設し、社員同士のランチや食事会の経済的援助を会社が行い、交流を促し、悩みごと相談等で多く活用されている。
合同会社Rug	現場での働きやすさを追求、2週間に1度のペースで「1on1ミーティング」を実施。社員一人ひとりの声に耳を傾け、勤務体制や職場環境の要望や意見を丁寧に聞き取っている。「就労準備支援事業」の活用により、専門外の業務を担当する社員を一人雇用。社員が技術職として専念できる環境を整え、スキルの向上や雇用の定着に成功している。



取組み内容について、詳しくは区ホームページをご覧ください。
<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kurashi/008/001/d00206147.html>



世田谷区からのお知らせ

武田砂鉄

「勝手に分断してしまった」

「それにしても、こういう同窓会だと、特に女子は、結婚してる・してないで分かれちゃうよね。今日の出席者も、基本的にそんな感じじゃん。していない人はあまり来ていない気がする」
友人も「ああ、確かにそうかも」と答える。同窓会が終わった後になって、ようやく気がつく。何、さっきのアレ、めっちゃ乱暴じゃないか。確かに、出席者の女子には、結婚している人が多かったが、欠席した人の理由を知らない。人それぞれに決まっている。仕事かもしれないし、そもそも会いたくないのかもしれないし、好きなテレビを観たかったのかもしれない。それなのに、「30代女性は、結婚の有無や子どもの有無で分断されてしまう」という、どこかで聞いたような定義をすっかり鵜呑みにして、撒き散らしていたのである。
あれから、結構な月日が経つのに、自分の発言を思い出して頭をかかえる。何様なんだ、オマエは。何、勝手に分断してんだ。同窓会では、つい、昔ながらの関係性を瞬時に取り戻そうと、話が雑糞になる。今週末、気をつけたい。

これを書いて数日後に高校の同窓会が予定されている。その連絡を聞いた瞬間、「行かなくていいや」と思ったのだが、翌日、「こういう仕事(ライター)をしている人間は、『いいや』と思ったら、むしろ、行くべきではないか」と思い始めた。結局、行くことにした。なぜ行きたくないと思ったのか、逆に行くことにしたのか、その理由を聞かれても明確に答えられるわけではない。気まずいトーク、盛り上がるトーク、いろいろあるだろうし、1人でポツンと取り残されるかもしれない。とにかく行ってみることにした。
以前、大規模な同窓会があったのは確か7、8年ほど前のこと。今、自分は41歳だから、33歳とか34歳とかそれくらいだったはず。その同窓会の出席は、ネット上の登録フォームに書き込めるようになっており、「出席」「欠席」「保留」の3つに分かれていた。最初は様子見が多く、「保留」欄の登録が目立った。1週間くらい前になると、いよいよ出席を決める。コメント欄もあり、幹事が「子連れでもOKなお店にしたので、子連れでも来てくださいね」と書く、「助かる」といったコメントが連なった。結果、同窓会に集まったのは、20人くらいの男子と、20人くらいの女子と、その子どもたちだった。子どもを連れて集まったのは女子ばかりだった。もちろん、男子にも子どもを持つ親がいたが、子どもを連れてきている人はいなかった。自分は、結婚しているものの子もいない。その時も「子どもは？」という人から聞かれまくった。同級生の中でも、新しい間柄の友人には「自分たち夫婦は、特に子どもが欲しい」と思っているわけではないんだよね。でも、中には不妊治療したり、様々な理由があって、子どもが欲しくても叶わずに悩んでいる人がいるから、その言い方はやめたほうがいいよ」と伝えておく。
友人と話を続ける。

らぶらすコラム

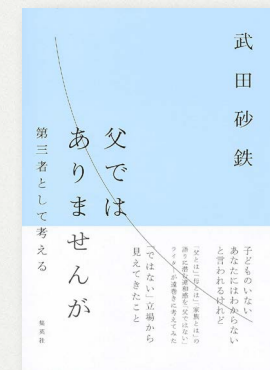


武田砂鉄 Satetsu Takeda / Profile

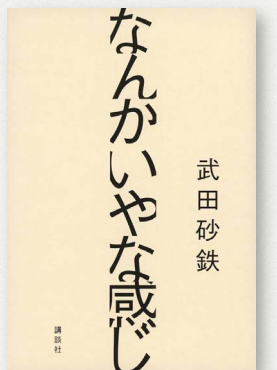
1982年生まれ。出版社勤務を経て、2014年よりライターに。2015年、「紋切型社会」で第25回Bunkamuraドゥマゴ文学賞受賞。他の著書に「コンプレックス文化論」「日本の気配」「わかりやすさの罪」「偉い人ほどすぐ逃げる」「マチズモを削り取れ」「べつに怒ってない」「今日拾った言葉たち」「父ではありません」「なんかいやな感じ」などがある。週刊誌、ファッション誌、webメディアなどさまざまな媒体で執筆するほか、ラジオ番組のパーソナリティとしても活躍している。



「マチズモを削り取れ」
集英社/2021年7月10日



「父ではありませんが、
第三者として考える」
集英社/2023年1月31日



「なんかいやな感じ」
講談社/2023年9月26日

らぶらすライブラリー 所蔵案内

Laplace Library

らぶらすで武田さんの著書が
読めます、借りられます!

